番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-1	現代文B	2	S･A･P	3	必修

何を学ぶか

・1年次の「国語総合」の学習成果をもとに、近代以降の評論、小説、随想、詩歌を学んでいく。
・説明的な文章である「評論」「随想」と、文学的文章である「小説」や「詩歌」を交互に学習する。
・鑑賞文や意見文の作成、要約課題にも取り組む。

学習目標

・表現・理解の基礎となる語彙、文法、漢字の読み書きについて、正しく理解し身につけるようにする。
・読解力や鑑賞力を高め、論理的思考力と、発想力、豊かな感受性を養う。
・作品理解や読書を通して、自分と自分をとりまく環境を見つめ、自らの意見を持てるようにする。

学習方法

予習：①本文を音読する。②漢字、語句の意味を辞書で調べノートに記入する。③全体の構成、梗概（あらすじ）を考える。疑問点、感想をメモしておく(予習プリントが配布される場合もある。)。④漢字の小テスト等の課題に取り組む。
授業：①説明をよく聞き、発問に対して自分で答えを考え、板書をノートに記入する。説明事項について積極的にメモをとる。
復習：①漢字・語句が身につくように反復練習する。②ノートを見ながらポイントとなる箇所を教科書で確認し、よく分からなかったところは後日質問して理解する。

評価方法

・定期考査は1・2学期の中間と、各学期末に実施し、漢字等の小テストを週ごとに実施する。
・考査点（定期考査・課題テスト）と平常点（提出物・小テスト・※授業参加など）とを8：2の割合で評価する。※は語句の意味調べ等の予習課題や、授業時の発表、感想文・レポート課題の提出状況などで知識・理解・興味・意欲を見る。

授業予定

「▼」は定期考査の時期を示す

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
							▼				▼											▼					▼								▼		
現代文B	随想		■	■							■	■																									
	評論						■	■										■	■			■	■									■	■	■			
	小説				■	■														■	■			■	■	■	■			■	■						
	詩歌								■	■							■																				
	表現		■							■							■															■					

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-2	古典B	2	S・A・P	3	必修

何を学ぶか

①古文や漢文に用いられている語句の意味や用法、文の構造
②文章や作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる方法
③主要な古文や漢文にみられる、人間や社会、自然などに対する各時代の思想や感情
④古典作品の表現上の特色や優れた表現
⑤日本文化の特質や日本文化と中国文化との関係等、について学習する。

学習目標

・古典の読解方法を身につけ、古文・漢文を自分の力で読解していく。
・多様な古典文学に触れ各作品を理解することを通して、古典文学の魅力を知り、それらの作品に表現されている人間の生き方・考え方を自分の生き方に活かしていく。

学習方法

・予習段階では、教科書本文をノートに筆写し、わからない語句を調べ、音読しておく。自分なりに現代語訳をしておくと、授業中の学習がより効果的に行える。
・授業では、音読練習、語句の意味の確認、内容理解、文法や文学史等の学習を行う。
・学習した知識を定着させるために、復習は必ず行う必要がある。
・文法テキストや国語便覧を活用し、知識を深めたり広げたりすることも大切である。

評価方法

・定期考査は1・2学期の中間・期末及び学年末に実施する。
・随時、古語や文法などの小テストを実施する。
・考査点（定期考査・課題テスト）と平常点（提出物・小テスト・※授業参加など）とを8：2の割合で評価する。※は知識・理解・興味・意欲を見る。

授業予定

「▼」は定期考査の時期を示す

分野	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
							▼				▼											▼						▼								▼		
古文	詩歌	／											／	／	／	／												／	／	■						／	／
	物語・説話	／	■	■	■	■							／	／	／	／					■	■	■	■				／	／			■	■			／	／
	随筆・日記	／								■	■		／	／	／	／		■	■	■								／	／					■	■	／	／
	文法	／	■	■	■	■				■	■		／	／	／	／		■	■	■	■	■	■	■				／	／			■	■	■	■	／	／
	文学史	／				■					■		／	／	／	／				■				■				／	／	■	■		■		■	／	／
漢文	故事・寓話	／										■	／	／	／	／	■											／	／							／	／
	史話・物語	／					■	■	■				／	／	／	／												／	／							／	／
	思想	／											／	／	／	／										■	■	／	／							／	／
	漢詩	／											／	／	／	／									■			／	／							／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-3	世界史A	2	S理・A理・P	2	必修

何を学ぶか

・世界の歴史のうち、16世紀以降のヨーロッパ世界を中心に世界が一体化していく近・現代を中心に学んでいきます。

学習目標

・生徒の世界史への興味・関心を高め、自ら取り組む態度を養います。
・世界がどのような歴史を遂げ、現在の世界を形成しているか理解します。
・世界を学ぶことで、現代の世界が当面する課題について考察できる力を養います。

学習方法

・教科書、資料集に沿って授業を進めていきます。
・小テストなどを実施し、学習内容の定着を図ります。
・歴史上の人物や具体的なエピソードで、生徒の興味を引き出す工夫をします。
・日本とのつながりを踏まえながら、学習を進めます。

評価方法

評価は、定期考査を7割～8割程度、小テスト、課題、授業態度（興味・関心、意欲、知識、授業姿勢）を2割～3割程度の割合で総合的におこなう。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
世界史A	世界の一体化	／	■	■	■								／	／	／	／												／	／							／	／
	産業革命	／				■	■						／	／	／	／												／	／							／	／
	市民革命	／						■	■	■			／	／	／	／												／	／							／	／
	帝国主義の時代	／									■	■	／	／	／	／												／	／							／	／
	第一次世界大戦	／											／	／	／	／	■	■	■	■								／	／							／	／
	戦間期の世界	／											／	／	／	／					■	■	■					／	／							／	／
	第二次世界大戦	／											／	／	／	／								■	■	■	■	／	／							／	／
	東西冷戦	／											／	／	／	／												／	／	■	■	■				／	／
	地域紛争と国際社会	／											／	／	／	／												／	／				■	■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-4	世界史B	2	S文 ・ A文	4	選択･必修

何を学ぶか

1　地域ごとの比較考察や地域相互の関連についての学習をします。
2　地域別・国別または事項別に大きくまとめる学習をします。
3　現代の諸地域の社会と文化に関連させながら歴史の学習をします。
4　日本史上の事象とも関連させ、世界史上における日本の位置を明らかにするとともに、研修旅行とも関連させた学習もします。
5　世界史上の人物について時代背景や地域の特質と関連付ける学習をします。

学習目標

1　世界史に関する興味・関心を高め、意欲的に学習する態度を育成します。
2　世界史の大きな枠組みと流れを、我が国を含む諸地域世界の歴史と関連付けながら理解させます。
3　自国の歴史や文化をより客観的に見る目を育て、国際社会に生きる日本人としての資質を養います。
4　主題学習を通して客観的で公正なものの見方を育てるとともに、広い視野から歴史を考察します。

学習方法

1　生徒に理解させるべき基礎的な内容を明確にし、課題や小テストを通して重点的に指導します。
2　近年の研究・発見などの成果を反映した授業を行い、最新の情報を提供します。
3　歴史資料・歴史図版・新聞・ビデオ教材などを活用し、生徒の興味・関心を引き出す工夫をします。
4　ノート点検や発問を積極的に行い、生徒のより良好な学習態度を育てます。
5　大学・就職などの入試の傾向に注意し、補習を実施すると共に、必要な進路情報を提供します。

評価方法

○ 評価は、定期考査を7割～8割程度、小テスト、課題、授業態度（興味・関心、意欲、知識、授業姿勢）を2割～3割程度の割合で総合的に行う。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
世界史B	西アジア世界と地中海世界	／	■	■	■	■							／	／	／	／												／	／							／	／
	南アジア世界−インド文明	／					■	■	■				／	／	／	／												／	／							／	／
	東アジア世界	／								■	■	■	／	／	／	／												／	／							／	／
	イスラームの広がり	／											／	／	／	／	■	■	■	■								／	／							／	／
	ヨーロッパ世界の形成	／											／	／	／	／					■	■	■					／	／							／	／
	中央ユーラシア世界	／											／	／	／	／								■	■	■		／	／							／	／
	近世ヨーロッパ	／											／	／	／	／											■	／	／	■	■	■				／	／
	アジア諸地域の帝国	／											／	／	／	／												／	／				■	■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-5	日本史B	2	A文	4	選択

何を学ぶか

（1）原始古代から近世までの日本の歴史を学ぶ。
（2）日本文化の特色や伝統への理解を深める。
（3）歴史の中での外国との関係を学び、現代社会に活かす。

学習目標

・原始古代からの日本史展開を世界史的な視野に立って考察し、自国の歴史や文化・伝統への認識と誇りを深めるとともに、歴史的思考力を養い、国民としての自覚を持って複雑化した国際社会の中で生きる資質を培う。

学習方法

（1）国際関係を重視し、広い視野から多面的・多角的に歴史的事象を総合的に考察する。
（2）資料集を活用したり、様々な情報（新聞やTなどで）を収集する。
（3）ノートに授業内容をまとめ、配布されるプリント類を添付して、日本史ノートを作成する。
（4）文化史に関するプリントを、教科書・資料集を活用して完成させる。

評価方法

○ 評価は、定期考査を7割～8割程度、小テスト、課題、授業態度（興味・関心、意欲、知識、授業姿勢）を2割～3割程度の割合で総合的に行う。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
日本史B	原始・古代	／	■	■	■	中間考査	■				期末考査		／	／	／	／					中間考査					期末考査		／	／		学年末考査					／	／
	中世	／						■	■	■		■	／	／	／	／	■											／	／							／	／
	近世	／											／	／	／	／		■	■	■		■						／	／							／	／
	近代	／											／	／	／	／							■	■	■		■	／	／	■						／	／
	近現代1	／											／	／	／	／												／	／			■	■			／	／
	近現代2	／											／	／	／	／												／	／					■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-6	数学Ⅱ	2	S	4	必修

何を学ぶか

・数学Ⅱは式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分と積分を学びます。
・定理や公式を証明し、それらを使って具体的な問題に応用していきます。

学習目標

・基礎的な知識の習得と問題を解く力の習熟を目指します。
・事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし、それらを活用する態度を育成します。
・数学的な考え方や論理的思考力を養います。

学習方法

・予習は、教科書に目を通し、例題の解法についての理解に努めます。
・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集の類題を解くと、さらに理解が深まります。
・毎日続けることが大切です。

評価方法

・定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み状況を中心に観点別に評価します。
・評価の割合
「知識・技能」50%、「思考・判断・表現」30%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
数Ⅱ	方程式・式と証明	／	■	■									／	／	／	／												／	／							／	／
	図形と方程式	／			■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／												／	／							／	／
	三角関数	／											／	／	／	／	■	■	■	■	■	■						／	／							／	／
	指数・対数関数	／											／	／	／	／							■	■	■	■	■	／	／							／	／
	微分と積分	／											／	／	／	／												／	／	■	■	■	■	■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-7	数学Ⅱ	2	A	4	必修

何を学ぶか

・数学Ⅱは式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分と積分を学びます。
・定理や公式を証明し、それらを使って具体的な問題に応用していきます。

学習目標

・基礎的な知識の習得と技能の習熟を図ります。
・事象を数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともにそれらを活用する態度を育てます。
・将来の進路希望を実現できるように、実践的な力を養います。

学習方法

・予習：教科書に目を通し、例題の解法についての理解に努めます。
・復習：習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。
　　理解できないところは、担当の先生に質問してください。
・毎日続けることが大切です。毎日の学習の目安：予習（30分）、復習（30分）
・進学に向けた取り組み（補習・合宿・模試等）に、積極的に参加してもらうことで実践力を高めます。

評価方法

・定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み状況を中心に観点別に評価します。
・評価の割合
「知識・技能」40%、「思考・判断・表現」40%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
数学Ⅱ	式と証明	／	■										／	／	／	／												／	／							／	／
	図形と方程式	／		■	■	■	■					■	／	／	／	／												／	／							／	／
	三角関数	／											／	／	／	／	■	■	■	■	■							／	／							／	／
	指数関数と対数関数	／						■	■	■	■		／	／	／	／												／	／							／	／
	微分と積分	／											／	／	／	／						■	■	■	■	■	■	／	／	■	■					／	／
	数学Ⅱ演習	／											／	／	／	／												／	／			■	■	■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-8	数学B	2	S理	2	必修

何を学ぶか

・数学Bは平面上のベクトル、空間のベクトル、数列を学びます。
・定理や公式を証明し、それらを使って具体的な問題に応用していきます。

学習目標

・基礎的な知識の習得と技能の習熟を図ります。
・事象を数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともにそれらを活用する態度を育てます。
・将来の進路希望を実現できるように、実践的な力を養います。

学習方法

・予習：教科書に目を通し、例題の解法についての理解に努めます。
・復習：習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。
　　理解できないところは、担当の先生に質問してください。
・毎日続けることが大切です。毎日の学習の目安：予習（30分）、復習（30分）

評価方法

・定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み状況を中心に観点別に評価します。
・評価の割合
「知識・技能」50%、「思考・判断・表現」30%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
数学B	平面上のベクトル	／	■	■	■	■	■	■	■	■			／	／	／	／												／	／							／	／
	空間のベクトル	／									■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■							／	／							／	／
	数列	／											／	／	／	／						■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-9	数学B	2	A文	2	必修

何を学ぶか

・数学Bは平面上のベクトル、空間のベクトル、数列を学びます。
・定理や公式を証明し、それらを使って具体的な問題に応用していきます。

学習目標

・基礎的な知識の習得と技能の習熟を図ります。
・事象を数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともにそれらを活用する態度を育てます。
・将来の進路希望を実現できるように、実践的な力を養います。

学習方法

・予習：教科書に目を通し、例題の解法についての理解に努めます。
・復習：習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。
　　理解できないところは、担当の先生に質問してください。
・毎日続けることが大切です。毎日の学習の目安：予習（30分）、復習（30分）
・進学に向けた取り組み（補習・合宿・模試等）に、積極的に参加してもらうことで実践力を高めます。

評価方法

・定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み状況を中心に観点別に評価します。
・評価の割合
「知識・技能」40%、「思考・判断・表現」40%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
数学B	平面上のベクトル	／	■	■	■	■	■	■	■	■			／	／	／	／												／	／							／	／
	空間のベクトル	／									■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■							／	／							／	／
	数列	／											／	／	／	／						■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-10	数学B	2	A理	2	必修

何を学ぶか

・学Bは平面上のベクトル、空間のベクトル、数列を学びます。
・数学B終了後は数学Ⅲを学びます。
・数学Ⅲは複素数平面、式と曲線、関数、極限を学びます。
・定理や公式を証明し、それらを使って具体的な問題に応用していきます。

学習目標

・基礎的な知識の習得と技能の習熟を図ります。
・事象を数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともにそれらを活用する態度を育てます。
・将来の進路希望を実現できるように、実践的な力を養います。

学習方法

・予習：教科書に目を通し、例題の解法についての理解に努めます。
・復習：習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。
　　理解できないところは、担当の先生に質問してください。
・毎日続けることが大切です。毎日の学習の目安：予習（30分）、復習（30分）
・進学に向けた取り組み（補習・合宿・模試等）に、積極的に参加してもらうことで実践力を高めます。

評価方法

・定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み状況を中心に観点別に評価します。
・評価の割合
「知識・技能」40%、「思考・判断・表現」40%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
数学B	平面上のベクトル	／	■	■	■	■	■	■	■	■			／	／	／	／												／	／							／	／
	空間のベクトル	／									■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■							／	／							／	／
	数列	／											／	／	／	／						■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-11	数学A	2	P	3	必修

何を学ぶか

・数学Aは、場合の数と確率、整数の性質、図形の性質を学びます。
・高等学校数学の基礎的な定理や公式を証明し、それらの演習問題を解くことを通して、数学的な能力を身に付けていきます。

学習目標

・基礎的な知識の習得と問題を解く力の習熟を目指します。
・事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし、それらを活用する態度を育成します。
・数学的な考え方や論理的思考力を養います。

学習方法

・予習は、教科書に目を通し、例題の解法についての理解に努めます。
・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集の類題を解くと、さらに理解が深まります。
・毎日続けることが大切です。

評価方法

・定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み状況を中心に観点別に評価します。
・評価の割合
「知識・技能」50%、「思考・判断・表現」30%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
数学A	場合の数と確率	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■		／	／	／	／												／	／							／	／
	図形の性質	／										■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		／	／							／	／
	整数の性質	／											／	／	／	／											■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-12	化学基礎	2	S・A	3	必修

何を学ぶか

・物質の構造・性質や反応などから自然科学の基本的な知識・概念や原理・法則を学ぶ。
・学んだ知識などを生かして物質の利用法や社会での活用の意味などを学ぶ。

学習目標

・化学的な事物・現象について、観察・実験を行う。
・自然に対する関心や探究心を高める。
・化学的に探究する態度や能力を深める。
・基本的な概念や原理・法則を理解し、自然を化学的にとらえられるようにする。
・エネルギーと物質の成り立ちについての理解を深める。
・科学技術や自然と人間の関わりについての理解を深める。

学習方法

・教室授業とともに、実験を通して物質の性質や化学変化の理解を深める。
・身の回りの自然に興味・関心を持ちながら学習する。
・問題演習を通じて計算法・理論を身につける。
・定期考査の他、適宜小テストを実施して理解度を確認する。

評価方法

定期考査を中心に、実験レポートなども含めて知識・理解・興味・意欲等を総合的に判断する。
実験レポート等は1割程度とする

5月　7月　10月　12月　3月

○は定期考査実施予定

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
化学基礎	化学と人間生活	／	■	■									／	／	／	／												／	／							／	／
	物質の探求	／			■	■	■						／	／	／	／												／	／							／	／
	物質の構成粒子	／						■	■	■			／	／	／	／												／	／							／	／
	物質と化学結合	／									■	■	／	／	／	／	■	■										／	／							／	／
	物質量と化学変化	／											／	／	／	／			■	■	■	■						／	／							／	／
	酸と塩基	／											／	／	／	／							■	■	■	■	■	／	／							／	／
	酸化と還元	／											／	／	／	／												／	／	■	■	■	■	■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-13	物理基礎	2	S理・A理	2	必修

何を学ぶか

・自然界にある現象のうち、物理的な現象について扱います。
・大きくは力学領域、波動領域、電磁気領域からなり、それら諸現象について、その法則性を学びます。

学習目標

・自然界で起こる物理的な現象の中に存在する法則性・規則性を見いだし、諸現象をその法則性・規則性によって説明できることを目指します。

学習方法

・力学・波動・電磁気の領域があり、それぞれの領域に存在する規則性・法則性を講義や問題演習、実験・実習を通して理解していきます。
・多くの場合、規則性・法則性は数学の式を用いて表すので、数学の知識が大切になります。

評価方法

・定期考査……毎回の考査において、約70点を基礎的問題. 約30点を応用的問題を出題し、そのうち30点以上の得点を合格点とする。
・提出物　他……適宜提出を求め、取り組みの姿勢や内容に応じて採点する。
・年度末において、定期考査と提出物他の得点を総合し、単位認定を決定する。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
物理基礎	運動の表し方	／	■	■	■	■							／	／	／	／												／	／							／	／
	運動の法則	／					■	■	■	■	■	■	／	／	／	／												／	／							／	／
	運動とエネルギー	／											／	／	／	／	■	■										／	／							／	／
	熱とエネルギー	／											／	／	／	／			■	■	■	■						／	／							／	／
	波の性質	／											／	／	／	／							■	■	■	■	■	／	／							／	／
	音　波	／											／	／	／	／												／	／	■	■					／	／
	電流の流れ方	／											／	／	／	／												／	／			■	■	■		／	／
	電気の利用	／											／	／	／	／												／	／						■	／	／
	人間と物理	／	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	／	／	／	／	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	／	／	□	□	□	□	□	□	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-14	物理基礎	2	P	3	必修

何を学ぶか

・自然界にある現象のうち、物理的な現象について扱います。
・大きくは力学領域、波動領域、電磁気領域からなり、それら諸現象について、その法則性を学びます。

学習目標

・自然界で起こる物理的な現象の中に存在する法則性・規則性を見いだし、諸現象をその法則性・規則性によって説明できることを目指します。

学習方法

・力学・波動・電磁気の領域があり、それぞれの領域に存在する規則性・法則性を講義や問題演習、実験・実習を通して理解していきます。
・多くの場合、規則性・法則性は数学の式を用いて表すので、数学の知識が大切になります。

評価方法

・定期考査……毎回の考査において、約70点を基礎的問題. 約30点を応用的問題を出題し、そのうち30点以上の得点を合格点とする。
・提出物　他……適宜提出を求め、取り組みの姿勢や内容に応じて採点する。
・年度末において、定期考査と提出物他の得点を総合し、単位認定を決定する。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
物理基礎	運動の表し方	／	■	■	■	■							／	／	／	／												／	／							／	／
	運動の法則	／					■	■	■	■	■	■	／	／	／	／												／	／							／	／
	運動とエネルギー	／											／	／	／	／	■	■										／	／							／	／
	熱とエネルギー	／											／	／	／	／			■	■	■	■						／	／							／	／
	波の性質	／											／	／	／	／							■	■	■	■	■	／	／							／	／
	音　波	／											／	／	／	／												／	／	■	■					／	／
	電流の流れ方	／											／	／	／	／												／	／			■	■	■		／	／
	電気の利用	／											／	／	／	／												／	／						■	／	／
	人間と物理	／	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	／	／	／	／	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	／	／	□	□	□	□	□	□	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-15	体育	2	S・A	3	必修

何を学ぶか

① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
③ 科学的根拠に基づいた運動実践により自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

・1学期始めに、オリエンテーションをし、集団行動・スポーツテストを行う。
・学期ごとに選択種目2種目を行う。1年生から引き続き実施する種目については実践的な技術を身につけゲームを楽しめるよう、体力や技能の習得を目指す。
・また、剣道・ダンス・陸上選択については、1・2学期を通じて実施する。

評価方法

・種目ごとに、①運動技能（40%）、②関心・意欲・態度（40%）、③思考・判断（10%）、④知識・理解（10%）の割合で総合的に評価をする。
・評価内容は、①運動技能は個々のスキル点、②関心・意欲・態度は参加状況と活動意欲、③思考・判断はゲーム点と課題感想レポート、④知識・理解は各種目ルール、技術理論等の理解度である。欠席等をなくして意欲的な授業への参加を求める。

授業予定

科目		単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
			上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
体育	男女	集団行動・スポーツテスト	／	■	■									／	／	／	／												／	／							／	／
		集団行動・スポーツテスト	／	■	■									／	／	／	／												／	／							／	／
		体つくり運動	／			■								／	／	／	／	■											／	／							／	／
		体育理論	／										■	／	／	／	／	■											／	／							／	／
		剣道	／				●	●	●	●	●	●		／	／	／	／		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／							／	／
		バスケットボール	／				●	●	●	●	●	●		／	／	／	／		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／	●	●	●	●	●	●	／	／
		バドミントン	／				●	●	●	●	●	●		／	／	／	／		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／	●	●	●	●	●	●	／	／
		テニス	／				●	●	●	●	●	●		／	／	／	／		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／	●	●	●	●	●	●	／	／
		ソフトボール	／				●	●	●	●	●	●		／	／	／	／		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／	●	●	●	●	●	●	／	／
		ダンス	／				●	●	●	●	●	●		／	／	／	／		●	●	●	●	●	●	●	●	●		／	／							／	／
		陸上競技	／				●	●	●	●	●	●		／	／	／	／		●	●	●	●	●	●	●	●	●	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／

■は必修種目、●は選択して実施する種目
＊3学期の陸上競技は長距離走とし、週2時間行う

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-16	体育	2	P	3	必修

何を学ぶか

① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
③ 科学的根拠に基づいた運動実践により自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

・1学期始めにオリエンテーション、集団行動・スポーツテストを行い、1学期に2種目、2、3学期は3種目を毎週実施する。
・各種目とも基本的な体力、実践的な技能の習得を目指し、より高度なゲームができるよう授業を計画、実践することを目標とする。

評価方法

・種目ごとに、①運動技能（40%）、②関心・意欲・態度（40%）、③思考・判断（10%）、④知識・理解（10%）の割合で総合的に評価をする。
・評価内容は、①運動技能は個々のスキル点、②関心・意欲・態度は参加状況と活動意欲、③思考・判断はゲーム点と課題感想レポート、④知識・理解は各種目ルール、技術理論等の理解度である。欠席等をなくして意欲的な授業への参加を求める。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
体育	集団行動・スポーツテスト	／	■	■									／	／	／	／												／	／							／	／
		／	■	■									／	／	／	／												／	／							／	／
	剣道	／			■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	／	／
	男：ソフトボール	／			■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／												／	／							／	／
	女：ダンス	／			■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／												／	／							／	／
	男：ﾊﾞｽｹ・体育理論	／											／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／							／	／
	女：テニス・体育理論	／											／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／							／	／
	男：サッカー	／											／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／				■	■	■	／	／
	女：バスケットボール	／											／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／				■	■	■	／	／
	長距離走	／											／	／	／	／												／	／	■	■	■				／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-17	保健	2	S・A・P	1	必修

何を学ぶか

① 生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があることを学ぶ。
② 環境の汚染が人々の健康にもたらす影響を知り、その防止と改善のためにさまざまな対策がとられていることを学ぶ。
③ 健康で安全な生活が営めるように環境衛生活動や食品衛生活動が行われていることを学ぶ。
④ わが国の保健・医療制度や機関を知り、適切に活用することの重要性を学ぶ。
⑤ 職場における健康問題として、職業病と労働災害の状況、および働く人々の健康の保持増進のための対策について学ぶ。

学習目標

・人間の一生のなかで、高校生の時期は体や心の発達という点から大変重要な意味を持っている。保健の授業では、個人としてだけでなく、社会の一員として、しかも地球規模で健康の問題を考え、健康的な生活習慣を身につけることを目指す。
・生活環境を守るための知識と能力を高め、生涯を通じた健康づくりの基礎の確立を目指す。
・生活行動と健康との関わりや環境問題について自ら調査・研究し学習することにより、今後の生活において、健康の保持増進に役立てられるようにする。

学習方法

・授業に集中し、単元の内容を理解するとともに、健康と安全に留意した日常生活が送れる態度を身につける。「環境と健康」についてはグループ内で役割分担をし課題学習に取り組む。
・夏季休業中にグループ毎のテーマの分野から、各自が興味関心のある事柄について深く研究を行い、レポートを作成する。
・グループで発表ができるように、内容をまとめ、重要な項目については資料を作成する。
・毎時間のグループ発表について、個人ノートに内容をまとめる。

評価方法

・定期考査・課題学習レポート・発表内容・資料・個人ノートを中心に知識・理解・興味・関心・意欲等を総合的に
判断する。
・定期考査については、1学期末・学年末に実施する。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
保健	思春期と健康	／	■	■	■								／	／	／	／												／	／							／	／
	結婚生活と健康	／				■	■	■					／	／	／	／												／	／							／	／
	加齢と健康	／							■	■			／	／	／	／												／	／							／	／
	保健・医療制度	／											／	／	／	／											■	／	／	■						／	／
	様々な保健活動や対策	／											／	／	／	／												／	／		■	■				／	／
	環境と健康	／									■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		／	／							／	／
	環境と食品の保健	／									■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		／	／							／	／
	労働と健康	／											／	／	／	／												／	／				■	■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-18	スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ	2	P	3	必修

何を学ぶか

① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
③ 科学的根拠に基づいた運動実践により自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

・スポーツ総合専攻1、2、3年生を専攻種目ごとの縦割り集団として、実戦的でレベルの高い専攻種目の授業を行なう。

評価方法

・種目ごとに、①運動技能（40%）、②関心・意欲・態度（40%）、③思考・判断（10%）、④知識・理解（10%）の割合で総合的に評価する。
・評価内容は、①運動技能は個々のスキル点、②関心・意欲・態度は参加状況と活動意欲、③思考・判断はゲーム点と課題感想レポート、④知識・理解は各種目ルール、技術理論等の理解度である。欠席等をなくして意欲的な授業への参加を求める。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
スポーツⅠⅡⅢ	剣道（男女）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	バスケットボール（女子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	バレーボール（女子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	陸上競技（男女）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	硬式野球（男子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	サッカー（男子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	ソフトテニス（女子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	なぎなた（女子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-19	音楽Ⅱ	2	S文・P	2	選択必修

何を学ぶか

・歌唱（斉唱、重唱、合唱）、器楽（ギター）、楽典、鑑賞

学習目標

・音楽を身近なものとして楽しみ、芸術に親しむための基礎を学ぶ。

学習方法

・歌唱は教科書やそれ以外にも幅広い教材を用いて、独唱、斉唱、合唱をする。
・器楽はギターの基礎的な奏法を身につけ、鍵盤楽器や打楽器等を用いて合奏をする。
・鑑賞は映像や音源を通して、芸術を幅広く理解し音楽のよさや美しさを味わう。

評価方法

・表現（歌唱・器楽）は「音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとする（主体的に学習に取り組む態度）」「知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けている（思考・判断、表現 ）」「創造的な音楽表現をするために必要な知識・技能を身につけている（知識・技能）」の観点で評価する。<授業中の演奏、実技テスト、提出物、筆記テスト>
・鑑賞は「音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとする（主体的に学習に取り組む態度）」「芸術を幅広く理解し、そのよさや美しさを味わって聴いている（鑑賞の能力）」の観点で評価する。<授業中の様子、提出物、筆記テスト>

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
音楽Ⅱ	歌唱	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	器楽（ギター）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	楽典	／	■			■			■			■	／	／	／	／			■			■			■			／	／			■		■		／	／
	鑑賞	／		■					■				／	／	／	／			■		■		■					／	／	■			■			／	／
	実技テスト	／								■	■		／	／	／	／									■	■		／	／					■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-20	美術Ⅱ	2	S文・P	2	選択必修

何を学ぶか

・表現基礎 〈デッサン・ドローイング〉
・発想を構成する力 〈アイデアスケッチ・エスキス・作品の原画〉
・表現技法〈多様な技法・豊かな表現を追求する〉
・鑑賞〈様々な作品や伝統文化に接することで、美的なものに親しむ心と眼を養う〉

学習目標

・素直な気持ちで、何を表現したいのか明確にする。〈独創性(オリジナリティー)を追求〉
・豊かで自由な表現力を養う。〈様々な表現技法を学び、新しいものに挑戦し、感性を豊かにする〉
・真摯に作品に取り組み、できる限り時間をかけて丁寧に仕上げる。〈表現力を深める〉
・基本的な表現技法をしっかり身につけ、生涯、趣味として生かせる技術を身につける。
・作品の表現と鑑賞を通して、美術への愛好心を養い、伝統文化への理解を深める。

学習方法

・表現基礎・ものの構造を捉える〈「表情のある手」鉛筆デッサン・作品の原画をドローイング〉
・発想を作品の原画として構成する 〈イメージを明確に➲資料収集➲アイデアスケッチ・エスキス〉
・絵画技法〈アクリル絵具の基本技法・表現方法を学ぶ。「日本の美しい風景」をテーマにする。〉
・デザイン〈機能・用途に応じた発想・構成力を学ぶ。図柄とレタリングのレイアウトを工夫。〉
「CDジャケットデザイン」の制作
・彫塑〈立体の基本・粘土の特性・工具の技法〉「フィギュア・面・フレーム・その他から選択」
・あらゆる機会を通して様々な作品を鑑賞する。〈映像資料の活用〉

評価方法

・すべての作品を完成させて、提出することが原則。
【関心・意欲・態度】主体的に表現や鑑賞に取り組めているか。
【芸術的な感受や表現の工夫】自ら主題を見つけ、感性を働かせ、多様な表現を工夫しているか。
【創造的な表現の技能】基本技法を身につけ、主題に応じた表現で、丁寧に仕上げられているか。
【鑑賞の能力】素直な気持ちで様々な作品に接したり、創作に生かしたりして、多様な文化への理解を深められたか。
・欠席、遅刻過多や授業態度についても、点数化はしないが評価をする上で考慮する。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
美術Ⅱ	構想表現	／	■	■									／	／	／	／	■									■	■	／	／							／	／
	アクリル画	／			■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／												／	／							／	／
	デザイン	／											／	／	／	／		■	■	■	■	■	■	■	■			／	／							／	／
	彫　塑	／											／	／	／	／												／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	鑑　賞	／	■									■	／	／	／	／	■										■	／	／	■						／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-21	書道Ⅱ	2	S文・P	2	選択必修

何を学ぶか

・漢字(篆書・隷書・草書)・仮名・漢字仮名交じりの書・篆刻を学びます。

学習目標

・「書道Ⅰ」で学んだ内容を基礎として、新たな古典の鑑賞・臨書を行い、表現力を高めます。

学習方法

・多様な書体の古典を臨書し、毛筆の特性や幅広い表現方法を学びます。
・一つの古典に時間をかけることでその技法をより確かなものにします。
・学んだ技法を活用し、自分の想いを表現する創作にも取り組みます。
・篆刻では異素材による表現に取り組み、書の奥深さにふれます。
・完成した印は落款印としても活用します。

評価方法

・主体的に表現や鑑賞の創作活動に取り組めているか(関心・意欲・態度)
・書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫しているか(書表現の構想と工夫)
・基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身につけているか(創造的な書表現の技能)
・書の伝統と文化を理解し、書のよさや美しさを創造的に味わっているか(鑑賞の能力)
以上の内容について、完成した作品の達成度とともに評価します。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
書道Ⅱ	篆刻			■	■	■	■	■	■																												
	篆書		■							■																											
	隷書										■	■							■	■																	
	楷書																																				
	硬筆																■										■										
	草書・行書																				■	■	■	■													
	創作																	■												■	■						
	仮名																								■	■											
	漢字仮名交じり																															■	■	■	■		

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-22	コミュニケーション英語Ⅱ	2	S	4	必修

何を学ぶか

・「コミュニケーション英語Ⅰ」の学習内容を踏まえながら、まとまった英文を読む活動（主に教科書）、聞く活動（主に副教材）、表現する活動(主にライティングやスピーキングの取組)などを通じて、英語の4技能である「読む・聞く・書く・話す」力をバランスよく伸長していく。

学習目標

・幅広い話題について、読んだことや聞いたことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり、書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
・卒業時にCEFRのB1レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

① 新出単語及び熟語の意味、使い方等を理解する。
② 英文を読み、T or F や Q and A 等に取り組みながらその内容を把握する。
③ 既習表現を生かしたパフォーマンス課題(ライティングやスピーキングの取組)を通して、アウトプットにつなげる。
④ 週1回の単語テストで、単語の定着を図るとともに語彙力をつける。

評価方法

●評価の4観点について、以下のように評価する。
・コミュニケーションへの関心・意欲・態度（約20%）
　出席状況、授業態度、言語活動への積極性、提出物　など
・外国語表現の能力　・外国語理解の能力（約60%）
　定期考査、課題テスト　など
・言語や文化についての知識・理解（約20%）
　小テスト、パフォーマンス課題(ライティングやスピーキングの課題)　など

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
コミュニケーション英語Ⅱ	Lesson 1	／	■	■	■								／	／	／	／												／	／							／	／
	Lesson 2	／			■	■	■						／	／	／	／												／	／							／	／
	Lesson 3	／						■	■	■			／	／	／	／												／	／							／	／
	Lesson 4	／								■	■	■	／	／	／	／												／	／							／	／
	Lesson 5	／											／	／	／	／	■	■	■									／	／							／	／
	Lesson 6	／											／	／	／	／			■	■	■							／	／							／	／
	Lesson 7	／											／	／	／	／						■	■	■				／	／							／	／
	Lesson 8	／											／	／	／	／									■	■	■	／	／							／	／
	Lesson 9	／											／	／	／	／												／	／	■	■	■				／	／
	Lesson 10	／											／	／	／	／												／	／				■	■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-23	コミュニケーション英語Ⅱ	2	A	4	必修

何を学ぶか

・「コミュニケーション英語Ⅰ」の学習内容を踏まえながら、まとまった英文を読む活動（主に教科書）、聞く活動（主に副教材）、表現する活動(主にライティングやスピーキングの取組)などを通じて、英語の4技能である「読む・聞く・書く・話す」力をバランスよく伸長していく。

学習目標

・幅広い話題について、読んだことや聞いたことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり、書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
・卒業時にCEFRの(A2～)B1レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

① 新出単語及び熟語の意味、使い方等を理解する。
② 英文を読み、T or F や Q and A 等に取り組みながらその内容を把握する。
③ 既習表現を生かしたパフォーマンス課題(ライティングやスピーキングの取組)などを通して、アウトプットにつなげる。
④ 週1回の単語テストで、単語の定着を図るとともに語彙力をつける。

評価方法

●評価の4観点について、以下のように評価する。
・コミュニケーションへの関心・意欲・態度（約20%）
　出席状況、授業態度、言語活動への積極性、提出物　など
・外国語表現の能力　・外国語理解の能力（約60%）
　定期考査、課題テスト　など
・言語や文化についての知識・理解（約20%）
　小テスト、パフォーマンス課題(ライティングやスピーキングの課題)　など

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
コミュニケーション英語Ⅱ	Chapter 1	／	■	■	■								／	／	／	／												／	／							／	／
	Chapter 2	／			■	■	■						／	／	／	／												／	／							／	／
	Chapter 3	／						■	■	■			／	／	／	／												／	／							／	／
	Chapter 4	／								■	■	■	／	／	／	／												／	／							／	／
	Chapter 5	／											／	／	／	／	■	■	■									／	／							／	／
	Chapter 6	／											／	／	／	／			■	■	■							／	／							／	／
	Chapter 7	／											／	／	／	／						■	■	■				／	／							／	／
	Chapter 8	／											／	／	／	／									■	■	■	／	／							／	／
	Chapter 9	／											／	／	／	／												／	／	■	■	■				／	／
	Chapter 10	／											／	／	／	／												／	／				■	■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-24	コミュニケーション英語Ⅱ	2	P	5	必修

何を学ぶか

・「コミュニケーション英語Ⅰ」の学習内容を踏まえながら、まとまった英文を読む活動（主に教科書）、聞く活動（主に副教材）、表現する活動(主にライティングやスピーキングの取組)などを通じて、英語の4技能である「読む・聞く・書く・話す」力をバランスよく伸長していく。

学習目標

・幅広い話題について、読んだことや聞いたことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり、書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
・卒業時にCEFRのB1レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

① 新出単語及び熟語の意味、使い方等を理解する。
② 英文を読み、T or F や Q and A 等に取り組みながらその内容を把握する。
③ 既習表現を生かしたパフォーマンス課題(ライティングやスピーキングの取組)などを通して、アウトプットにつなげる。
④ 週1回の単語テストで、単語の定着を図るとともに語彙力をつける。

評価方法

●評価の4観点について、以下のように評価する。
・コミュニケーションへの関心・意欲・態度（約20%）
　出席状況、授業態度、言語活動への積極性、提出物　など
・外国語表現の能力　・外国語理解の能力（約60%）
　定期考査、課題テスト　など
・言語や文化についての知識・理解（約20%）
　小テスト、パフォーマンス課題(ライティングやスピーキングの課題)　など

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
コミュニケーション英語Ⅱ	Lesson 1	／	■	■	■								／	／	／	／												／	／							／	／
	Lesson 2	／			■	■	■						／	／	／	／												／	／							／	／
	Lesson 3	／						■	■	■			／	／	／	／												／	／							／	／
	Lesson 4	／								■	■	■	／	／	／	／												／	／							／	／
	Lesson 5	／											／	／	／	／	■	■	■									／	／							／	／
	Lesson 6	／											／	／	／	／			■	■	■							／	／							／	／
	Lesson 7	／											／	／	／	／						■	■	■				／	／							／	／
	Lesson 8	／											／	／	／	／									■	■	■	／	／							／	／
	Lesson 9	／											／	／	／	／												／	／	■	■	■				／	／
	Lesson 10	／											／	／	／	／												／	／				■	■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-25	英語表現Ⅱ	2	S・A	2	必修

何を学ぶか

・「英語表現Ⅰ」で既習の文法事項について復習するとともに、それをもとに高校レベルの文法事項について、より深い知識を習得する。
・数多くの文章を暗唱し覚えることによって、会話の基本をしっかりと固め、話す、書く、伝えるといった活動につなげる。

学習目標

・高校レベルの基本的な文法をしっかり身につけ、自分の考えや身の回りのことを英語で話したり、書いたり、伝えたりして表現能力を養う。
・このような活動を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。
・英文でパラグラフを書くことができるようになるための表現や論理展開の仕方を学ぶ。
・卒業時にCEFRのB1レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

・高校レベルの文法事項を含んだ基本例文を理解し、ペアワーク等の言語活動を利用し暗記する。
・それをもとに、積極的に簡単な文章を書いたり、話したりして、自分の伝えたいことを表現する。
・学習した語句や表現・構文等を活用し、英語でまとまった文章を書く。

評価方法

●評価の4観点について、以下のように評価する。
・コミュニケーションへの関心・意欲・態度（約15%）
　出席状況、授業態度、言語活動への積極性、提出物　など
・外国語表現の能力　・外国語理解の能力（約70%）
　定期考査、課題テスト　など
・言語や文化についての知識・理解（約15%）
　小テスト、ライティングの課題　など

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
英語表現Ⅱ	Lesson 1～4	／	■	■	■	■	■						／	／	／	／												／	／							／	／
	Lesson 5～8	／						■	■	■	■	■	／	／	／	／												／	／							／	／
	Lesson 9～12	／											／	／	／	／	■	■	■	■	■	■						／	／							／	／
	Lesson 13～16	／											／	／	／	／							■	■	■	■	■	／	／							／	／
	Lesson 17～20	／											／	／	／	／												／	／	■	■	■	■	■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-26	家庭基礎	2	S・A・P	2	必修

何を学ぶか

・一人の生活者としてより良く生きるために、衣・食・住、消費生活、保育・教育、福祉、家族・家庭生活等について、社会の変化やライフステージの課題を取り上げながら学習します。

学習目標

・衣・食・住・保育等に関わる基礎・基本を系統的、体験的に学び、生活上の意志決定ができ、さまざまなライフステージでの課題を解決できる能力と実践力を養います。

学習方法

・授業の前に教科書を読み、資料集の関連事項に目を通して予習しておきましょう。
・毎時間、授業に集中し、プリントを記入すること。すぐに活用できるようファイルを整理しておきましょう。
・実験・実習に積極的に取り組み、理論を実践に結びつけ日常生活に活かしましょう。
・日常的に新聞や本、テレビ、インターネット等から生活情報を入手し、疑問を持ったり、調べたり、自分の課題を見つけたり、周囲の人に提案したりしていきましょう。

評価方法

・定期考査、課題学習、提出物（授業ファイル、レポート、実習作品）、授業や実験・実習に対する取り組み等について、「意欲・関心」40%、「知識・理解」40%、「思考・判断・表現」10%、「技能」10%の4つの観点で総合的に判断します。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
家庭基礎	家族・家庭	／	■	■	■	■	■	■					／	／	／	／												／	／							／	／
	消費生活	／						■					／	／	／	／												／	／							／	／
	衣生活を営む	／											／	／	／	／	■	■	■	■	■							／	／							／	／
	住生活を営む	／											／	／	／	／												／	／			■	■	■	■	／	／
	食生活を営む	／											／	／	／	／						■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■			／	／
	保育・教育	／							■	■	■	■	／	／	／	／												／	／							／	／
	福祉	／										■	／	／	／	／												／	／							／	／